Autumn 2025
Innovation
Airbus Japan Newsletter
AIRBUS

エアバス・ジャパン株式会社の代表取締役社長に西川栄治を任命

エアバスは、エアバス・ジャパン株式会社の代表取締役社長に西川栄治を任命しました。6 月末にエアバスを退社したステファン・ジヌーの後任として、2026 年 1 月 1 日付で就任します。

西川は、日本におけるエアバスの全事業を統括します。日本のステークホルダーとの関係強化に注力し、特に産業および研究開発分野において日本との協働を一層促進します。西川は、航空宇宙・防衛産業において、豊富な知見と卓越した実績を有しています。

2007 年に住商エアロシステム株式会社でキャリアをスタート。2010 年、住友商事株式会社での勤務を経て、2013 年に BAE システムズに入社しました。2015 年からは、同社の日本事業を担当するビジネスディベロップメントディレクターを務め、戦略的な事業の成長に貢献しました。グローバル戦闘航空プログラム（GCAP）の立ち上げを推進し、日英の二国間防衛協力を拡大する調整役として主導的な役割を果たしました。

また、BAE システムズ・オーストラリアでグローバル・アクセス・プログラム担当ビジネスディベロップメントマネージャーを務め、日豪間の防衛産業協力の礎を築く役割を担いました。

2004 年に慶應義塾大学法学部を卒業。2022 年には英国国防大学の防衛事業監理プログラムを履修しました。

エアバスは日本において 60 年以上にわたる実績を有します。ヘリコプターの民間・官公庁分野では 50%以上のシェアを占め、日本のヘリコプタービジネスをリードしています。

さらにエアバスは、日本の大手通信事業者と、日本にとって初の欧州製衛星の契約を受注しています。また、日本企業と協力し、日本の市場における HAPS の運用実証試験を行っています。

エアバスは日本企業と宇宙分野の事業において、互いの強みを活かす技術連携を通じて強固な関係を構築しています。こうした連携のもと、地球観測や科学探査といった多数のミッションに共同で参加しています。



2026 年 1 月 1 日付でエアバス・ジャパンの代表取締役社長に就任する西川栄治

contents

エアバス・ジャパン株式会社の代表取締役社長に西川栄治を任命
キャセイと SAF の導入拡大に向けた共同投資パートナーシップを締結
フライドバイ、A321neo を 150 機発注へ
韓国に研究開発拠点「エアバス・テックハブ」を設立
エティハド航空、ワイドボディ機を拡充
エア・ヨーロッパ、A350-900 を最大 40 機発注へ
ドバイ航空ショーのハイライト

キャセイと SAF の導入拡大に向けた共同投資パートナーシップを締結

エアバスとキャセイグループは、アジアおよび世界における持続可能な航空燃料（SAF）の生産を加速するため、最大 7,000 万米ドルの共同投資を発表しました。

今回のパートナーシップの条件に基づき、両社は協力して、2030 年以降に向けた SAF 生産の規模拡大を支援するプロジェクトの特定、評価、投資を行います。プロジェクトは、商業的な実現可能性、技術的な成熟度、および長期的な引取り契約の可能性に基づいて評価されます。

SAF の規模拡大には、政策立案者や投資家から SAF 生産者、顧客に至るまで、バリューチェーン全体にわたる深い協力が必要です。この共同投資契約は、エアバスとキャセイが協力して生産能力を加速し、より意味のある影響を生み出すというパートナーシップの精神を反映しています。

キャセイのアレックス・マクゴーワン チーフ・オペレーション・サービス・デリバリー・オフィサーは次のように述べています。「SAF は、キャセイとより広範な航空業界が脱炭素化目標に向かって推進するための最も重要な手段であり続けます。当社は、より強力で、より成長力のある SAF 産業構築に取り組んでおり、このたびエアバスと共同投資パートナーシップ締結に至りました。当社は最近、『ワンワールド BEV SAF ファンド』へ投資するなど、将来に必要な技術と生産能力へ投資を行うより幅広い戦略を掲げており、今回の投資もその一環です。また現在、志を同じくする組織とのパートナーシップを通じて、SAF の使用を拡大しています」

エアバスのアナンド・スタンレー アジア太平洋地域プレジデントは以下のように語りました。「このパートナーシップは、真の変化をもたらすために取り組むエアバスとキャセイの共通の決意を反映しています。手頃な価格の SAF を大規模に生産・流通させるには、前例のない分野横断的なアプローチが必要です。キャセイと協力することは、私たちが航空会社にサービスを提供するうえで最も適切な場所で SAF 生産を実現する具体的な例となります」

今回のパートナーシップでは、アジア全域で需給両面における SAF 支援政策を提唱するために協力も行います。この地域が持つ豊富な原料供給源、高い生産能力、そして活発な航空市場という強みを活かし、両社は世界的な知見をもって、アジアでの SAF の普及と低価格化を実現するための政策作りを支援していきます。

キャセイグループがエアバス機を初めて発注した 1989 年以来、エアバスとキャセイは長年にわたる協力関係を築いています。現在、キャセイグループは 86 機のエアバス機を運航しており、今後さらに 70 機以上が引き渡される予定です。



香港で開催されたパートナーシップ締結記念式典に出席したキャセイグループのアレックス・マクゴーワン チーフ・オペレーション・サービス・デリバリー・オフィサー（左）とエアバスのアナンド・スタンレー アジア太平洋地域プレジデント

フライドバイ、A321neo を 150 機発注へ

フライドバイが A321neo を 150 機発注する覚書（MoU）を締結し、エアバスの新たな顧客となりました。ドバイの発展計画に対するフライドバイの確信を裏付ける合意となりました。

ドバイ航空ショーの期間中に行われた調印式で、フライドバイ会長のシェイク・アハメッド・ビン・サイード・アル・マクトゥーム殿下とエアバスのクリスチャン・シェーラー民間航空機事業 CEO が覚書に署名しました。フライドバイのガイス・アル・ガイス最高経営責任者（CEO）も出席しました。

最新世代の A321neo はフライドバイの路線拡大戦略に寄与します。より高い効率性と快適性を提供し、新路線の開設を実現します。



新規顧客となったフライドバイ

韓国に研究開発拠点「エアバス・テックハブ」を設立

エアバスは、韓国における「エアバス・テックハブ」の設立を発表しました。韓国の研究開発の中心地であるテジョンを拠点とし、共同研究と革新技術の開発を専門に行います。これにより、戦略的技術パートナーとして、韓国との関係を強化します。

エアバス・テックハブは、韓国の産業上の強みを活かした主要研究分野が 3 つあり、未来のエネルギー技術、最先端の軽量複合材料、次世代の防衛・宇宙技術に焦点を当てます。

韓国のエアバス・テックハブは、産業通商資源部（MOTIR）およびテジョン広域市と緊密に連携して設立が進められています。

エアバスのマーク・ベンタール R & T プログラム責任者は次のように述べています。「韓国とは 50 年にわたる産業協力関係を築いており、テジョンにエアバス・テックハブを立ち上げることによって、さらにその関係性を深めていきます。韓国の先進技術を活用することができ、将来の航空機技術開発を促進、韓国と信頼性の高い長期的パートナーシップを発展させていきます。テジョンは世界クラスの R & D 機関と人材が集積する理想的な場所です。先進的な学術知識と高度な産業技術の相乗効果が見込め、エアバス・テックハブは航空宇宙業界を前進させる将来技術の共同開発に不可欠な拠点となるでしょう」



韓国のテジョンに研究開発拠点を設立

テックハブの任務を加速するため、エアバスは設立式典で 3 つの覚書（MoU）を締結しました。

産業通商資源部と締結した MoU では、高度な技術力を誇るテジョンにおいてエアバスが研究・イノベーションプロジェクトを迅速に開始できる枠組みを確立します。

テジョン市と締結した MoU では、テジョンにおけるあらゆる技術分野にわたり、エアバスの研究・イノベーションに対する支援と促進が確約されます。

韓国貿易協会（KITA）と締結した MoU では、KITA のオープンイノベーションプラットフォームを活用し、エアバスの重要技術分野に基づく新パートナーの特定と参加を促進します。

韓国のエアバス・テックハブ設立で発表されたプロジェクトのひとつは、LIG Nex1 と提携し、通信信号の送受信に使用される宇宙用チップアンテナ技術の開発です。また、エアバスは EMCoretech と協力し、電動化に必要な、電磁干渉を抑制するアクティブフィルタリング技術を開発しています。

韓国との関係は 50 年以上前の 1974 年に、大韓航空が A300B4 を発注したことから始まりました。以来、韓国はエアバスの民間航空機、防衛、宇宙、ヘリコプター製品全体にわたる主要な顧客でありパートナーでもあります。

韓国におけるエアバスの大きな産業基盤は、韓国航空宇宙産業（KAI）や大韓航空航空宇宙事業本部（KAL-ASD）などのティア 1 サプライヤーとの長年にわたるパートナーシップによって支えられています。これらの産業パートナーは、A320、A330、A350 ファミリー向けの主翼構造、胴体組立、複合材など、エアバスの民間航空機プログラムにおける重要なコンポーネント製造に参画しています。韓国の多くの中小企業もサプライチェーンに貢献しており、エアバスによる韓国での調達は現在、約 6,000 人の高技能雇用を維持し、年間約 6 億米ドルの貢献を地域経済にもたらしています。

韓国のテックハブは、最近釜山に開設したエアバスの完全子会社である複合材料技術センター（CTC：Composite Technology Centre）が補完します。CTC は、釜山テクノパークと協力し、航空宇宙向けの先進的な複合材料とその製造・加工技術の研究開発を行うことを目的としています。

韓国のエアバス・テックハブは、日本、オランダ、シンガポールに続く、4 番目の世界的なエアバス研究開発拠点のひとつです。エアバス・テックハブの目的は、業界リーダー、学術機関、政府機関、スタートアップとの協力関係を促進し、航空宇宙分野における技術革新の可能性を追求することです。

エティハド航空、ワイドボディ機を拡充

エティハド航空が A330-900 を 6 機確定発注し、A330neo の新規顧客となりました。さらに、A350-1000 を 7 機追加発注（総発注数を 27 機に増加）し、A350F を 3 機追加発注（発注数を合計 10 機に増加）したことを明らかにしました。

発注契約はドバイ航空ショーで締結されました。エティハド航空はまた、アボロンからリースで A330-900 を 9 機導入することも発表しました。

A350 は世界最新のワイドボディ機で、最大 9,700 海里 /18,000 キロメートルをノンストップで飛行することができ大陸間の空の旅に新たな基準を打ち立てました。最先端技術と最新の空力設計により優れた効率性と快適性を提供します。新世代のロールス・ロイスエンジンを搭載、軽量の最新素材を使用し、旧世代機と比較して燃費、運航コスト、CO_2 排出量を 25%削減しています。


エアバスのワイドボディ機を拡充するエティハド航空

エア・ヨーロッパ、A350-900 を最大 40 機発注へ

スペインのエア・ヨーロッパが A350-900 を最大 40 機発注する覚書（MoU）を締結しました。エア・ヨーロッパの長距離用機材の更新計画に基づき、覚書締結に至りました。



長距離用機材を更新するエア・ヨーロッパ

比類ない性能と経済性を備える A350 の導入によって、エア・ヨーロッパが現在保有する長距離用競合機材の更新を加速させ、ラテンアメリカにおける主要市場へのサービスで収益性の高い成長を後押しします。また、A350 による最高水準の快適な空の旅を提供することができます。

すべてのエアバス機と同様に A350 は持続可能な航空燃料（SAF）を最大 50%使用して飛行することができます。エアバスは 2030 年までに全エアバスファミリー機で SAF を 100%使用した運航の実現を目指しています。

ドバイ航空ショーのハイライト



多くの地上展示、デモ飛行を実施



デモ飛行する A350-1000



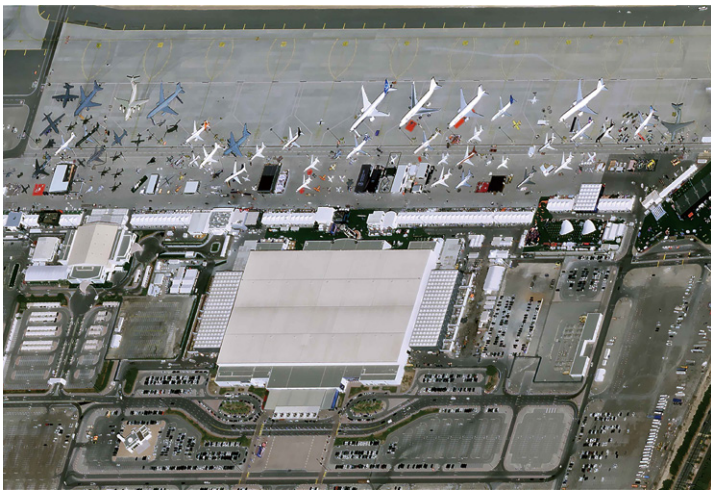
エアバスの展示スタンド



地上展示を行ったエミレーツ航空の A380



空軍による編隊飛行



プレアデスネオによるドバイ航空ショーの衛星画像

2025年度11月末時点の受注・引き渡し・運航機数			
機　種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	20,435機	12,840機	11,849機
A300 / A310	816機	816機	258機
A330 / A340	2,326機	2,027機	1,645機
A350	1,493機	686機	685機
A380	251機	251機	215機
合計	25,321機	16,620機	14,652機